

心潤す五葉山麓森林浴公園

岩手県住田町

千葉修悦

Chiba Syuetsu



「みすゞ亭」に集う仲間たち。左端が筆者。
(2010年11月5日撮影)

岩の上にぐっと根を張って林立するヒノキアスナロ。樹齢豊かな林。静けさと樹間に射し込む光。大きな岩の間を縫うように流れる清水とその水音。冷涼な空気。三陸沿岸の最高峰五葉山の西側斜面、約800mの高さに位置する五葉山麓森林浴公園の表情だ。

さまざまな人たちがここを訪れる。住田町立有住小学校の「自然観察会」では児童たち、岩手県立住田高等学校の「五葉山森林公園森林浴」では生徒たち、三陸中部森林管理署や五葉山自然倶楽部が行う森林散策では小さい子から大人まで参加する。

国際森林年の今年、7月26日には、三陸中部森林管理署、住田町、五葉山自然倶楽部が一体となって案内板や樹名板の設置、倒木の除去、森林浴道の整備を行った。初めての試みであったが、お互いの交流を深めることが出来た。

会話を弾ませ、くつろがせ、素直に、明るくさせるこの五葉山

麓森林浴公園は、悲しみや苦しみをも受け止めてくれる。

今年の6月5日。五葉山自然倶楽部が開催した「五葉山の山麓散策」に、大船渡市から参加した70代の男性は次のように話した。「あの震災で親族が亡くなり、やっと先日葬儀を済ませました。心の区切りをつけるために参加しましたが、おかげさまで気持ちを整理することが出来ました。」晴れ晴れとした表情だった。

また、秋の深まった10月23日には三陸中部森林管理署が五葉山麓「秋の森林散策」を開催。被災し窮屈な思いをしながら仮設住宅に住んでいる人たちにも笑いや弾んだ声があった。明るく、ゆったりとくつろいだ時間を過ごしていたのが印象的だった。

昨年の11月5日、私は、金子みすゞの詩を読み合う「みすゞ亭」に集う仲間たちをこの森に案内した。見事な紅葉が秋の日に映えたブナの広場で、お気に入りの木に寄り添い、澄んだ心、まっすぐな気持ちで詩と向き合う。あの日の明るく和んだ表情を思い出す。東日本大震災で逝ってしまった吉田さん、村上さん。詩の朗読にも抑制された美しさを漂わせるお二人。謙虚で誠実な姿が私の中に生きている。

喜びや悲しみ、人びとの思いのすべてを包み込んでくれる五葉山麓森林浴公園。そんな懐の深さに私は誘われる。